

町田市いきいき長寿プラン27-29策定に向けた検討

認知症支援のニーズ 分類結果

- ア 新しい認知症観（認知症のイメージ）
- イ 本人の集い、相談の場
- ウ 家族、介護者の支援、相談、交流
- エ 社会参加推進、やりたいことチャレンジ
- オ 認知症サポーター活動
- カ 早期受診、早期発見
- キ 本人の意思決定支援

町田市いきいき長寿プラン27-29策定に向けた検討

認知症支援に関するニーズについてのご意見（前回テーマ）

前回認知症施策推進協議会でいただいたご意見

- 小中学校や企業等に対する新しい認知症観の啓発を行っていく必要がある。
- 昨今、認知症の早期診断や早期受診が進まないことも多い。若い年代や幅広い世代に啓発をする必要がある。
- 多くの認知症サポーターに活躍の場の提供や、既存の活動に参加できる仕組みがあるとよい。
- 介護者が相談や、認知症の人の話を聞きたいと職員がいる。地域に「ぼくはぼく」のような誰でも出会える場所があるとよい。
- 本人の意思決定支援に力を入れた取り組みを実施してほしい。
- 例えば、グランベリーパークなどに認知症の人も集える拠点の場を作ることはできないか。

認知症支援に関するニーズについてのご意見（前回テーマ）

認知症地域支援推進員連絡会でいただいたご意見

- 認知症の人の声を発信する機会はとても重要。また、Dサミットやワークショップなど、そういった機会に地域支援推進員（高齢者支援センター）も関わる意味は大きい。
- 認知症の本人のみならず家族介護者等に対する支援もより充実させていく必要がある。
- キャラバン・メイト連絡会や認知症サポーター交流会はニーズを踏まえて開催していく必要がある。
- 認知症の人の社会参加推進のための取組みを、一層推進する必要がある。
- 町田市の認知症施策は充実している。今ある事業の目的をしっかりと確認して継続していく必要がある。
- 認知症の人の認知症地域支援推進員が担うべき業務の重要性や量が増してきている。

町田市介護保険事業計画・高齢者福祉計画審議会に報告した意見について

【認知症支援に関すること（地域ケア会議）】

- 「認知症とともに生きるまち」を実現するため、認知症の人と地域住民とともに意見交換をしながら考える必要がある。
- 認知症により意思決定が難しくなった時に備えておくための情報を整理しておく必要がある。

町田市介護保険事業計画・高齢者福祉計画審議会 に報告した意見について

【認知症支援に関すること(認知症施策推進協議会)】

- やりたいことがあるのは認知症の人でもそうでない人も同じ。認知症になっても支援者だけでなく、色々な人と関わって様々な活動をしたいという声があります。
- 地域に、誰もが出入りでき、居ても大丈夫と思える居場所が近所にたくさんあると良いという声があります。
- 「認知症とともに生きるまち」を実現するため、気軽にみんなで集まり認知症について考えたり、活動したりする場が必要です。
- 認知症の人に積極的に関わられるよう、認知症の人や家族の方への関わり方を学びたいという声があります。
- 多くの認知症サポーターに活躍の場を提供したり、既存の活動に参加できる仕組みづくりが必要です。
- 「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」(認知症基本法)が示す「新しい認知症観」について市内の小中学校や企業等に対し、普及啓発を行っていく必要があります。
- 認知症について気になった際や、認知症と診断された際に、気軽に相談できる場やすぐに対応するための取り組みが必要です。
- 家族介護者にとっての息抜きや、愚痴や悩みを吐露できる場が必要です。
- 家族介護者ごとに悩みは異なるが、色々な困りごとや対処方法等について、家族介護者同士で相談したり、情報交換することで、同じようなケースの備えになるという声があります。
- 認知症により意思決定が難しくなった時に備えておくための情報を整理しておく必要がある。

町田市いきいき長寿プラン27-29 取組みの方向性

取組みの方向性について (案)

取組みの方向性 1 認知症とともに生きるまちの実現に向けて取り組む	主な取組 ① D カフェの実施 ② 認知症とともに生きるまちづくりワークショップの実施 (新) ③ 認知症について考える「普及啓発イベント」の実施 ④ 16 のまちだアイ・ステートメントの普及 ⑤ 認知症サポーターの活動支援 ⑥ 認知症の人の社会参加活動機会の創出
取組みの方向性 2 認知症の人とその家族の支援に取り組む	主な取組 ① 認知症相談の実施 ② 認知症の早期受診支援(認知症初期集中支援チーム事業) (医師によるもの忘れ相談) ③ 認知症の人の家族等への支援 ④ 認知症の人の家族介護者等が悩みを打ち明けられる交流会の実施 ⑤ 行方不明高齢者の捜索支援

主な取組みについて（案）

取組みの方向性 1	主な取組
認知症とともに生きるまちの実現に向けて取り組む	① D カフェの実施 ② 認知症とともに生きるまちづくりワークショップの実施 ③ 認知症について考える「普及啓発イベント」の実施 ④ 16 のまちだアイ・ステートメントの普及 ⑤ 認知症サポーターの活動支援 ⑥ 認知症の人の社会参加活動機会の創出
取組みの方向性 2	主な取組
認知症の人とその家族の支援に取り組む	① 認知症相談の実施 ② 認知症の早期受診支援（認知症初期集中支援チーム事業）（医師によるもの忘れ相談） ③ 認知症の人の家族等への支援 ④ 認知症の人の家族介護者等が悩みを打ち明けられる交流会の実施 ⑤ 行方不明高齢者の搜索支援

取組みの方向性、主な取組みに対する意見

認知症地域支援推進員 連絡会でいただいたご意見	・「認知症の人の家族等への支援」の指標があいまいで分かりづらかった。案のような具体的な指標を検討する必要がある。また、案のとおり家族介護者交流会の開催を軸に指標を検討するべき。 ・初期集中支援チーム事業のニーズについて考える必要がある。センターの総合相談で対応できるケースも増えてきており、医療受診に繋がるケースも増えてきている。同事業では困難事例を扱うことが多くなってきている。 ・「行方不明高齢者の搜索支援」はGPS貸与の利用者数が指標となっているが、スマホのGPSなどを利用している人も増えてきているため、効果的な指標を検討する必要がある。 ・町田市の認知症施策は充実している。今ある事業の目的をしっかりと確認して継続していく必要がある。
----------------------------	---

主な取組みについて

取組みの方向性 1	主な取組
認知症とともに生きるまちの実現に向けて取り組む	① D カフェの実施 ② 認知症とともに生きるまちづくりワークショップの実施 ③ 認知症について考える「普及啓発イベント」の実施 ④ 16 のまちだアイ・ステートメントの普及 ⑤ 認知症サポーターの活動支援 ⑥ 認知症の人の社会参加活動機会の創出
取組みの方向性 2	主な取組
認知症の人とその家族の支援に取り組む	① 認知症相談の実施 ② 認知症の早期受診支援（認知症初期集中支援チーム事業）（医師によるもの忘れ相談） ③ 認知症の人の家族等への支援 ④ 認知症の人の家族介護者等が悩みを打ち明けられる交流会の実施 ⑤ 行方不明高齢者の捜索支援

取組みの方向性 1

認知症とともに生きるまちの実現に向けて取り組む

【新規】⑥ 認知症の人の社会参加活動機会の創出

【新規】

認知症の人が地域で望んだ活動を実施できるよう、認知症サポーターや住民、企業、地域団体等の人達がチームとなり、ともに望む活動の実現を図ることにより、認知症の人の社会参加活動機会の創出します。

⇒主な取組みとして、認知症の人の社会参加活動機会の創出に関する内容を新たに設定。現在、東京都のモデル事業として実施している「認知症のある人の社会参加推進事業」に関する概要を表記し、新たに指標を設定する。

主な取組みについて

取組みの方向性 1	主な取組
認知症とともに生きるまちの実現に向けて取り組む	① D カフェの実施 ② 認知症とともに生きるまちづくりワークショップの実施 ③ 認知症について考える「普及啓発イベント」の実施 ④ 16 のまちだアイ・ステートメントの普及 ⑤ 認知症サポーターの活動支援 ⑥ 認知症の人の社会参加活動機会の創出
取組みの方向性 2	主な取組
認知症の人とその家族の支援に取り組む	① 認知症相談の実施 ② 認知症の早期受診支援（認知症初期集中支援チーム事業）（医師によるもの忘れ相談） ③ 認知症の人の家族等への支援 ③ 認知症の人の家族介護者等が悩みを打ち明けられる交流会の実施 ④ 行方不明高齢者の捜索支援

取組みの方向性 2 認知症の人とその家族の支援に取り組む

② 認知症の早期受診支援（認知症初期集中支援チーム事業）（医師によるもの忘れ相談）

医療や介護の専門職で構成されたチームが高齢者の自宅を訪問し、認知症に関する様々な相談に対応するとともに、医療機関への受診支援や介護サービスの紹介を行います。認知症の早期に、必要な医療を受け、状態に応じた介護サービスを利用いただくことで、安定した生活の維持を図ります。

現行計画の指標

②	認知症初期集中支援チーム事業により医療機関の受診につながった対象者の割合	70%	70%以上	70%以上	70%以上
---	--------------------------------------	-----	-------	-------	-------

⇒早期受診支援としての内容を「初期集中支援チーム事業」から「医師によるもの忘れ相談」に変更し、新たな指標を設定する。

主な取組みについて

取組みの方向性 1 認知症とともに生きるまちの実現に向けて取り組む	主な取組 ① D カフェの実施 ② 認知症とともに生きるまちづくりワークショップの実施 ③ 認知症について考える「普及啓発イベント」の実施 ④ 16 のまちだアイ・ステートメントの普及 ⑤ 認知症サポーターの活動支援 ⑥ 認知症の人の社会参加活動機会の創出
取組みの方向性 2 認知症の人とその家族の支援に取り組む	主な取組 ① 認知症相談の実施 ② 認知症の早期受診支援（認知症初期集中支援チーム事業）（医師によるもの忘れ相談） ③ 認知症の人の家族等への支援 ④ 認知症の人の家族介護者等が悩みを打ち明けられる交流会の実施 ⑤ 行方不明高齢者の捜索支援

取組みの方向性 2 認知症の人とその家族の支援に取り組む

③ 認知症の人の家族等への支援

認知症の人だけでなく、その家族の負担や不安の軽減につながる支援が求められています。そのため、家族へのヒアリングにより生活上のニーズや思いの把握に努め、D カフェや地域団体が行う支援活動など、既存の社会資源の十分な活用を図るとともに、それ以外の必要とされる支援について、検討のうえ実施します。

現行計画の指標	③ 認知症の人の家族等への支援の実施	—	検討	実施	実施
---------	--------------------	---	----	----	----

⇒主な取組み名を「③ 認知症の人の家族介護者等が悩みを打ち明けられる交流会の実施」に変更。また、説明内容及び指標を交流会の実施の関する内容に変更し、具体的な内容に変更。

町田市いきいき長寿プラン27-29 取組みの方向性

取組みの方向性 1	主な取組
認知症とともに生きるまちの実現に向けて取り組む	① D カフェの実施 ② 認知症とともに生きるまちづくりワークショップの実施 ③ 認知症について考える「普及啓発イベント」の実施 ④ 16 のまちだアイ・ステートメントの普及 ⑤ 認知症サポーターの活動支援 ⑥ 認知症の人の社会参加活動機会の創出
取組みの方向性 2	主な取組
認知症の人とその家族の支援に取り組む	① 認知症相談の実施 ② 認知症の早期受診支援（認知症初期集中支援チーム事業）（医師によるもの忘れ相談） ③ 認知症の人の家族等への支援 ④ 認知症の人の家族介護者等が悩みを打ち明けられる交流会の実施 ⑤ 行方不明高齢者の捜索支援

⇒以上、取組みの方向性や主な取組みの案等についてそれぞれの視点から忌憚のないご意見をお願いします。